

看護研究 第33巻 総目次

2000年(第1号～第6号)

〔表示は、題名、著者名、(号)掲載ページ〕

焦点◆看護学における先端科学の推進
看護学の COE 形成に向けて
(企画：早川和生)

〔鼎談〕看護学における先端科学とは 看護学の COE
(Center of Excellence)形成に向けて 早川和生・筒
井真優美・羽山由美子 (1)3-13
COE の重要性と日本における起爆的效果 伊藤美樹
子 (1)15-21
先端科学研究のメッカ：米国国立衛生研究所(NIH)に
ついて 前田ひとみ (1)23-29
開発・創造型研究とナース・サイエンス 川口孝
泰 (1)31-36

焦点◆続・看護学における先端科学の推進

看護の科学を模索する 複雑系の科学の可能性 川原
由佳里・吉田みつ子・樋口康子 (2)3-10
カオス理論(Chaos Theory)と看護研究 川原由佳里・
守田美奈子・吾妻知美 (2)11-20
看護学における先端科学としての看護情報学 山内一
史 (2)21-27

焦点◆臨床看護に関する研究の動向と今後の課題
20 世紀から 21 世紀へ向けて

精神看護に関する研究の動向と今後の課題 神郡 博
(3)3-9
転倒防止に関する研究の動向と今後の課題 泉キヨ子
(3)11-19
褥瘡のケアに関する研究の動向と今後の課題 真田弘
美・大桑麻由美 (3)21-28
慢性病患者のケアに関する研究の動向と今後の課題
牛久保美津子・数間恵子 (3)29-37
糖尿病患者のケアに関する研究の動向と今後の課題
河口てる子・西片久美子・高瀬佳苗 (3)39-46
クリティカルパスの研究 菅田勝也・武村雪絵
(3)47-56

焦点◆臨床看護に関する研究の動向と
今後の課題(II)
20 世紀から 21 世紀へ向けて

わが国のターミナルケアに関する研究の動向と今後の
課題 射場典子・川越博美 (4)3-13
腎不全患者のケアに関する研究の動向と今後の課題
新世紀へ向けて 江川隆子 (4)15-22
リハビリテーション看護に関する研究の動向と今後の
課題 21 世紀の看護の発展に向けて 奥宮暁子・
宮腰由紀子 (4)23-32
看護管理学に関する研究の動向と今後の課題 金井
Pak 雅子 (4)33-40
看護教育に関する研究の動向と今後の課題 20 世紀
から 21 世紀へ 小山真理子 (4)41-50

焦点◆研究の枠組みと研究方法のクリティーク
サブストラクションによる分析と統合

ヘルスケアリサーチのためのサブストラクションとア
ウトカムモデル William L. Holzemer 著 岸
本好美・坂牧千秋・中嶋須磨子・和田恵美子・田代
順子訳 (5)3-7
Substruction and The Outcomes Model for Health Care
Research William L. Holzemer (5)8-11
サブストラクションの原理と実際 サブストラクショ
ンを自分のものにするために 藤崎郁 (5)13-23
サブストラクションの手法を用いた研究のクリティーク：変数に関して 萩原綾子・安藤つぐみ・片岡弥
恵子・辻恵子・土江田奈留美 (5)25-31
サブストラクションの手法を用いたクリティーク：標
本の大きさ 長谷川久巳・北原可織・角田祐紀子・
山西緑 (5)32-40
サブストラクションの手法を用いたクリティーク：測
定用具 大熊恵子・江上京里・酒井昌子・臺有桂
(5)41-50
大学院教育における看護学研究法としてのアウトカム
モデルとサブストラクションの意義と活用 田代順
子 (5)51-57

クリティークから統合への道すじ 低体温と創傷感染
に関する研究論文のサブストラクションを通して
操華子 (5)59-70

焦点◆臨床看護に関する研究の動向と今後の課題 20 世紀から 21 世紀へ向けて

急性期患者のケアに関する研究の動向と今後の課題
井上智子 (6)3-10

救急看護に関する研究の動向と今後の課題 山勢博
彰・山勢善江 (6)11-25

わが国における老年看護学研究の動向と今後の課題
北川公子・萩野悦子・中島紀恵子 (6)27-37

日本の小児看護に関する研究の動向と今後の課題 筒
井真優美・小村三千代・飯村直子・福地麻貴子・込
山洋美 (6)39-51

看護歴史に関する研究の動向と今後の課題 高橋みや
子・三上れつ (6)53-63

〔原著論文〕

ある精神障害・当事者にとっての病いの意味 地域生
活を送る N さんのライフヒストリーとその解釈
田中美恵子 (1)37-59

小児がんの子どもが腰椎穿刺時に対処行動を高めるた
めの看護介入 小川純子 (2)29-36

産痛の記憶に関する縦断的研究 産後の産痛強度の上
昇・下降に影響する因子 我部山キョ子・三好正満
(2)37-51

看護における社会的スキル尺度の構成 千葉京子・相
川充 (2)53-62

腎移植後再透析した患者の病気の体験から示唆された
看護の方向性 二重作清子・焼山和憲 (3)59-69

在宅酸素療法患者の食事の意味に関する質的分析 麻
原きよみ・大久保いく子・小西恵美子・征矢野あや
子 (4)63-71

カンガルーケアを実施した母親の早期産体験の癒し
中島登美子 (4)73-84

三つ子以上の多胎児家庭における障害児の有無別にみ
た母親の疲労状態 横山美江 (6)65-71

〔総説〕

ボディイメージへの看護介入とその効果についての検
討 サブストラクションによる分析と統合 藤崎郁
(5)73-87

〔研究報告〕

成人看護学教育におけるシミュレーション型 CAI 教
材の学習効果 古家明子・近藤ふさえ (1)61-70

女性の健康に関するケアリングを学ぶ手がかりとなる
プロセスの抽出 山崎あけみ (1)71-81

看護婦におけるバーンアウトと対人環境 西堀好恵・
諸井克英 (3)71-81

階段昇降が脳卒中片麻痺患者の身体および精神状態に
及ぼす影響 中田康夫・村木敏明・末吉勝則・石川
雄一 (6)73-81

保健医療分野の住民組織活動の構造に関する一考察
横森喜久美・兵井伸行 (6)83-91

〔調査報告〕

高齢者虐待に対する介護支援専門員(ケアマネジャー)
の意識 アンケート調査をもとに 橋本久子
(4)85-92

〔海外報告〕

発展途上国における健康管理 中米ホンジュラス共和
国での国際協力の現場から 磯邊厚子 (2)81-86

〔論説〕

日本人の“病い観” 看護の対象者となる人たちを理解
するために 関谷由香里 (2)73-80

〔特別記事〕

次代の看護教育のあり方 米国の医療・看護環境の変
化をふまえて Ada Sue Hinshaw 著 田島桂子
監訳 (4)51-62

〔書評〕

子どもの看護に携わる看護者の必読書 『小児・新生
児の痛みと看護』〔評者〕中野綾美 (1)60

〔その他〕

看護理論を検証する研究とその意義 宗正みゆき・真
壁五月・野島良子・中柳美恵子 (2)65-72